

1 本年度の重点教育目標

将来の自立に向けた資質・能力の育成

2 本年度の取組の重点

① 学びの充実と授業改善のさらなる推進	② 特別支援教育および多様性への配慮
③ 体力向上と健康意識の強化	④ 教職員の心理的安全性とウェルビーイングの推進
⑤ 保護者・地域との連携強化	⑥ 学校全体でのいじめ防止・生活指導の徹底

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 学びの充実と授業改善のさらなる推進	「鱒川スタンダード」と「1時間完結型授業」のさらなる進化	a	全校共通の取組として定着してきている。今後も継続した取り組みを行う。	A	A	
	個別最適化の推進	a	子ども一人一人の実態に応じた学習活動を今後も計画的に進めていく。	A	A	
② 特別支援教育および多様性への配慮	ユニバーサルデザイン化の徹底	b	子どもたちが安心して学べる環境の整備を継続的に行う。	A	A	
	個別対応体制の強化	b	個に応じた対応を全職員の共通理解のもと進めていく。	A	B	より具体策を明確にして進める。
③ 体力向上と健康意識の強化	計画的な体力作りの継続促進	b	学習活動はもとより、特活等でも計画的な取組を行っていく。	A	B	発達段階や実態に即した、学校全体としての取り組みを
	健康教育の充実	b	健康について子どもたちの興味・関心を高める教育活動を充実させる。	A	A	
④ 教職員の心理的安全性とウェルビーイングの推進	心理的安全性の醸成	a	全教職員が安心して過ごせる職員室の環境整備に努める。	A	A	
	教職員の健康管理と働き方改革の促進	a	ストレスチェック等を有効活用し、心身の健康管理に努める。	A	A	教職員の安定と子供理解が子ども達の成長に繋がります。
⑤ 保護者・地域との連携強化	信頼関係の再構築	a	毎日の報告や定期的な懇談にて情報共有をし、日常的な指導に生かす。	A	A	
	地域人材の積極的な活用	b	学習活動を深めるために地域人材の発掘及び市の人材活用を促進する。	A	B	市の人材活用を幅広く行って有効な人材の活用を
⑥ 学校全体でのいじめ防止・生活指導の徹底	サポート体制の強化	a	定期面談をはじめ、日常のサポート等より深い児童生徒理解に努める。	A	A	
	地域や保護者との協力	b	将来の自立に向けて、学校、地域、保護者が協働した生活指導を行う。	A	B	何よりも保護者（国の子寮）との連携が重要な子どもたちですのでできる限りの努力を

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。